

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)	平成22年度第3回小金井市廃棄物減量等推進審議会		
事 務 局 (担 当 課)	小金井市ごみ対策課		
開 催 日 時	平成22年11月25日(木) 午後6時00分から午後7時45分まで		
開 催 場 所	小金井市役所 第二庁舎8階 (801会議室)		
出 席 者	委 員	<出席者：15名> 庄司会長・植村副会長・加藤委員・竹内委員・波多野委員 佐藤委員・山田委員・多田委員・澤島委員・伊藤委員 鈴木委員・勝又委員・簗口委員・原委員・松村委員 <欠席者；0名>	
	事 務 局	深沢環境部長・三上ごみ処理施設担当部長・柿崎ごみ対策課長 三浦ごみ処理施設担当課長・吉沢中間処理場担当課長 鈴木ごみ対策課長補佐・藤本ごみ処理施設担当課長補佐 井上・中福・府川・石阪	
傍聴者の可否	可	傍 聴 者 数	0
会議次第	1 開会 第2回審議会会議録の確認 2 議題 (1)「平成23年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問 (2)「平成23年度ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵応募作品の審査」 (3)報告事項 ア 平成22年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について イ 新ごみ処理施設建設事業の進捗状況について (4)「平成23年度小金井市一般廃棄物処理計画(案)」について審議 (5)その他		

会議結果	別紙審議経過のとおり
提出資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成23年度一般廃棄物処理計画について（諮問）写 2 平成22年度 可燃ごみ処理の支援状況について 3 燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について 4 平成23年度一般廃棄物処理計画（案）
その他	<p>次回開催予定 平成23年1月26日（水） 午後6時00分から 小金井市前原暫定集会施設1階 A会議室</p>

庄司 会長	<p>ただいまより、平成22年度第3回小金井市廃棄物減量等推進審議会を開催する。</p> <p>議事に入る前に、平成22年度第2回審議会における会議録の確認についてはいかがか。</p>
委員 各位	「よろしい」
庄司 会長	<p>第2回廃棄物減量等推進審議会の会議録については承認されたこととし、公開の手續きをとる。</p> <p>議題に入る。</p> <p>(1)の「平成23年度一般廃棄物処理計画(案)」の諮問について</p>
深澤部長	<p>市長を代行し、「平成23年度一般廃棄物処理計画(案)」について諮問(諮問書を会長に授与、委員各位に対し諮問書の写しを配布)</p>
庄司 会長	<p>「平成23年度一般案廃棄物処理計画(案)」の諮問を受けたが、これに入る前に、議題(2)「平成23年度版ごみ・リサイクルカレンダーの審査」を行いたい。</p> <p>事務局より、審査方法等の説明を願いたい。</p>
柿崎 課長	<p>審査の方法について説明</p> <p>応募対象は、市内小学校4年生、5年生及び6年生の児童とし、応募作品数は137作品であった。この内、ごみ対策課において一次審査を行い、そこで選出した20作品の中から本日審査していただく。</p> <p>お手元の投票用紙には、第一位、第二位、第三位の3作品を記入し、提出いただきたい。</p> <p>点数の配分は、第一位(5点)、第二位(3点)、第三位(1点)とし、最高点の作品を最優秀賞とし、平成23年度版ごみ・リサイクルカレンダーの表紙絵を飾ることとする。それ以外の作品は、優秀賞、または佳作とし、ごみ・リサイクルカレンダーの裏表紙を飾ることとする。</p> <p>委員皆様の視点で、表紙絵に相応しい作品を決めて頂きたい。</p>
庄司 会長	<p>ただ今の説明に従い、審査を開始する。</p> <p>※展示作品の審査開始</p> <p>※各委員投票用紙を担当職員に提出</p>
庄司 会長	<p>平成23年度版ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の審査結果は、後ほどの報告とする。</p>

石阪 係長	<p>ここで、事務局より、本日の配布資料について確認願いたい。</p> <p>「配布資料の確認」</p>
庄司 課長	<p>配布資料についてはよろしいか。</p>
委員 各位	<p>「よろしい」</p>
庄司 会長	<p>次に、議題（３）報告事項 ア「平成２２年度可燃ごみ処理に係る支援の状況について」報告願いたい。</p>
三浦 課長	<p>資料：「平成２２年度 可燃ごみ処理の支援状況について」に基づき説明</p> <p>１０月１９日に開催した当審議会において報告した、搬入見込み量に変化は無く、現状、計画どおりの処理が可能であり、支援団体のご理解・ご協力に深く感謝申し上げます。</p> <p>なお、平成２３年度の広域支援要請は、現在、各団体と調整中であり、詳細な報告は、一定の時期に至るまで猶予をいただき、その後、当審議会に報告したい。</p> <p>次に、資料：「燃やすごみの処理量の昨年度との月別の比較について」は、燃やすごみの処理量を昨年度と比較したものであり、１０月末日までに確定した、家庭系、事業系の可燃ごみの実績を月毎に示したものである。</p> <p>家庭系は、前年度同月対比で３３３．３トン（３．９％）の減少となった。また、事業系は、前年度同月対比で７８２．１トン（４４．６％）の減少となり、全体で７０１．７トン（７．６６％）の減少となっている。</p> <p>減量が図られた主な要因としては、景気の低迷もさることながら、市民の皆様のごみ減量に対するご努力の賜物であると考えている。この場をお借りし深く感謝申し上げたい。</p> <p>このことにより、平成２２年度の総処理量は、各団体への搬入見込み量と同程度に納まるものと見込まれる。</p>
庄司 会長	<p>ただ今の報告に対し、質問はあるか。</p>
澤島 委員	<p>大変お世話になっている多摩川衛生組合で発生した事故等について報告願いたい。また、小金井市への影響はあったのか。</p>
三浦 課長	<p>多摩川衛生組合で発生した事故については、前回の審議会において、既に報告しているが、①事故事例としては、塩素貯蔵タンクの漏洩であり、一定期間の操業停止に至ったこと、また、②有害ごみ不適正処理の発覚に伴う、最終処分場への焼却灰搬入停止処分である。但し、小金井市との処理契約量８，０００トンは</p>

<p>加藤 委員</p>	<p>計画どおり推移し、直接的影響は無かった。</p> <p>今年10月までの推移から、今年度内の搬入見込み量は、概ね14,500トン位と見込まれる。事業系ごみはかなり減少しているが、これは処理手数料の値上げが影響しているものなのか。また、家庭系は、約4%程度の減少であるが、今後もこの率を推移し、減量率が低くなって行くのかについての見解を伺いたい。</p>
<p>深澤 部長</p>	<p>ご指摘のとおり、現状を問われた場合、平成17年度にごみの有料化を開始し、有料ゴミ袋により各ご家庭のごみを出していただいている。</p> <p>当初は、年間19,000トンもあった可燃ごみが、現在は14,000トンにまで減量化が果たされている。</p> <p>平成19年度以降、二枚橋衛生組合での焼却を停止したことにより、三多摩地域の市、あるいは他の団体に可燃ごみの処理をお願いしている事情もあり、平成19年度には一番大きなごみ減量がなされ、その後、市民の皆様のご理解とご協力により、家庭系可燃ごみは5%台の減少率を推移し、その後、減少幅は少なくとも、引き続きごみ減量化が果たされている。また、ごみ減量施策として、生ごみ処理機器の補助率の引き上げ、または、ざつがみ袋等を用いた資源化収集に取り組んだことにより減量が果たされているが、かなり限界に至っていることも事実である。</p> <p>事業系は、昨年の夏以降には大幅な減量化が果たされており、これは、事業者のご理解とご協力によることはもとより、併せて、三多摩地域においても高額な事業系ごみ処理手数料の引き上げによる影響も重なっているものと推測される。</p> <p>このことにより事業者は処理費用の節減を図るため、市の指定する処理施設以外での処理に移行したこと、また、市の指定施設以外のごみ量は、市が管理する事業系ごみ量に含まれないため、このことも大幅な減量化が果たされた要因であると考えている。</p>
<p>庄司 会長</p>	<p>加藤委員のご指摘は、来年度の一般廃棄物処理計画の減量目標値を定めるにあたり、今後、具体的に検討いたしたい。</p> <p>次に、議題(3)報告事項 イ「新ごみ処理施設建設事業の進捗状況について」報告願いたい。</p>
<p>三浦 課長</p>	<p>9月14日に開催された市議定例会中のごみ処理施設建設等調査特別委員会での委員長発言として、「小金井市から国分寺市に対し厳しい状況を伝え、市長のリーダーシップにより具体的行動を起こし、その結果を当特別委員会に示すことを強く求める」との発言があった。その後、10月15日に、大久保副市長が調布市の小林副市長を訪問し、二枚橋衛生組合が解散に至るまでの経過、ならば</p>

	<p>に当市の状況等について報告し、訪問の後、大久保副市長の感想として、「調布市の考え方に変化はなかった」旨の報告を受けている。また、国分寺市に対しては厳しい状況を伝えるとともに、引き続き二枚橋焼却場跡地での新ごみ処理施設建設に向けた努力を行う旨の報告を行った。</p> <p>なお、詳細な状況については、関係各市への影響があるため、現状、全てを明らかにすることは出来ないことについてご理解いただき、公表できる段階に至れば、全てを当審議会に報告したい。</p>
庄司 会長	ただいまの報告について、質問はあるか。
加藤 委員	国分寺市に対しては、どなたが報告したのか。
三浦 課長	市長同士の話し合いである。
庄司 会長	他に質問はないか。
委員 各位	「なし」
庄司 会長	次に、議題（４）「平成２３年度一般廃棄物処理計画について」に入る。事務局より、説明を求める。
石阪 係長	資料：「平成２３年度一般廃棄物処理計画（案）」に基づき説明
庄司 会長	<p>一般廃棄物処理計画については、これまでご覧になった方もいれば、今回初めてご覧になった方もいる中での処理計画の作成に向けた今後のスケジュールとして、本日の開催を含め３月末までに４回の審議会を開催し、答申に至ることについて認識願いたい。</p>
委員 各位	「了承」
庄司 会長	<p>本日、提案された処理計画は、総体的に眺めていただき、次回以降から詳細な内容をつめて行く方針としたい。</p> <p>そこで、最後の頁にある別紙小金井市のごみ処理フロー図と、５頁の第２「平成２３年度のごみ処理及びごみの減量目標」についての①ごみ処理見込量及び目標値と、７頁②資源物回収による資源化見込み量の表にある数字が、このフロー図に当てはまるわけで、このフロー図に更に数字が盛り込まれれば、全体の流れがより分かりやすくなると思われ、具体的にごみ減量施策に取り組むにあたり、ごみがどの様に処理されているかを認識することが重要であるため、５頁、７頁</p>

<p>府川 主任</p>	<p>にある数字を、別紙フロー図に当てはめて説明願いたい。</p> <p>まず、平成23年度一般廃棄物処理計画の5頁、発生見込み量の算定は、各トータルを記載しており、大きく分けて、可燃系・不燃系に分類し、更にごみ・資源物と分かれています。例えば、5頁の表中、平成22年度見込みの可燃系ごみについては、6頁の①ごみ処理見込み量及び目標値の表中、平成22年度見込みにある、可燃系ごみの小計とリンクしている。</p> <p>次に、7頁の②資源物回収による資源化見込み量の表中にある、可燃系、不燃系それぞれの小計は、5頁の表(1)発生見込み量の算定にある、可燃系・不燃系それぞれの、資源物見込みとリンクしている。</p> <p>なお、6頁の①ごみ処理見込み量及び目標値の可燃系、不燃系ごみとして集めた中にも、中間処理施設で分別した後に資源化されているものがある。</p> <p>例えば、7頁の(2)総資源化見込み量の算定の表中、収集後資源化見込み量、平成22年度見込み量にある4,460トン、6頁①表中のB・C・Dの合計数量である。また、7頁(2)総資源化見込み量の算定の表中、資源物回収による資源化見込み量(E)、平成22年度見込みは、7頁②資源物回収による資源化見込み量の合計(E)とリンクし、収集後資源化見込み量と資源物回収による資源化見込み量を合計したものが、総資源化見込み量となる。</p> <p>次に、7頁(3)総資源化率見込みは、5頁の(1)発生見込み量の算定表にある合計Aに対する(2)総資源化見込み量の合計(F/A)の割合である。</p> <p>別表のフロー図は、6頁①ごみ処理見込み量及び目標値を基本としたもので、粗大ごみは、フロー図にある市の中間処理場で分別処理された後の数字が各分類別に記載されているものとご理解願いたい。</p>
<p>庄司 会長</p>	<p>ただいまの説明で理解いただけたか。</p>
<p>加藤 委員</p>	<p>ごみゼロ化推進会議のメンバーでもある私でも、一度の説明ではなかなか理解できない部分もあり、一般市民にはなおさら難しいものと考えられる。</p> <p>そこで、質問したいが、平成23年度の目標値と平成23年度見込み量の数値が異なる理由について説明願いたい。</p>
<p>府川 主任</p>	<p>見込み量の算出根拠は、6頁①ごみ処理見込み量及び目標値の表の下にある(算出方法)を参照願いたい。</p> <p>見込み量は、平成22年度見込み量に人口伸び率(予測)を乗じたものであり、目標値は、8頁2(1)ごみ減量目標の枠内に、記載がある①可燃系：平成22年度と比較して5%減、②不燃系(有害ごみを除く)：平成22年度の処理量と比較して1%減としたものであり、見込み量と目標値とは、その性質が異なるものとご理解願いたい。</p>

庄司 会長	<p>この計画を立てる場合には、目標値はあくまでも目標値であり、この目標値を達成できなかった場合には支障をきたすため、処理見込み量を処理計画に当てはめ、ご支援いただく処理施設を確保する必要がある。目標値については、新たな施策を行うことにより更なるごみ減量を果たしたいが、目標値を達成できなかった場合にも、ご支援いただく処理施設の受け入れ量に支障の無いよう、今年度までの発生量の実績を基に、支援処理施設への搬入見込み量の計画を立てるための見込み量とした表現をする必要があると考えてよろしいか。</p>
事務局	<p>その様に捉えていただいてよろしい。</p>
加藤 委員	<p>新たな施策に取り組まなければ、平成23年度のごみ発生量は増えると捉えてもよろしいか。</p>
府川 主任	<p>小金井市は年々人口が増加しているため、平成23年度の発生見込み量を算定するに当たり、平成22年度の発生見込み量に人口の増減率を加えた場合には、当然、ごみも増える見込みとなる。</p>
加藤 委員	<p>平成22年度見込み量と平成23年度見込み量は、人口の増加によるものと考えてよろしいのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
庄司 会長	<p>提案として、平成22年度の見込み量と、平成23年度の見込み量とは、意味する内容が異なる。平成22年度は、今年9月までの実績を基に算出した数字であり、平成23年度の見込み量については、平成22年度の見込み量に、人口増減率を乗じた見込み量であり、その性格は異なるため、単に「見込み」と表現することについて審議する必要があると考える。</p> <p>数値的には、市が随所細かく積算したものであり、信頼のおけるものであるが、より詳細な内容を掲載することになれば、更に読み取ることが難しくなる皮肉な要素もある。そこで、いかに分かりやすくするかの総合的評価に立ち、審議していただきたいと考えている。</p> <p>また、フロー図との関係で、「可燃系ごみ」、または「可燃」等の異なる表現もあり、実際には粗大ごみでも可燃系と不燃系に分かれており、更に資源物の扱い方が複雑である。例えば、発生量で、可燃系と不燃系の単に通常のごみと資源物とに分けているが、資源物は回収方法によりかなり違ってくる。その辺について、7頁(2)総資源化見込み量の算定にある、収集後の資源化見込み量が立てづらく、市民には分かりづらい表現となってしまう。</p> <p>国の平成20年度のリサイクル率は20.3%で、収集後資源化量が全体の3</p>

府川 主任	<p>割強であり、直接資源化量が1/3、集団回収によるものが1/3位であり、収集後資源化が占める割合は多く、市民が直接分別し、リサイクルされるものは少なく。一旦、ごみとして収集したものを、中間処理場に搬入し、そこで選別し、資源化されているものの割合は非常に多い。</p> <p>7頁(2)総資源化見込み量の算定に注意書きがあり、ここに資源回収と収集後の資源についての説明がある。</p> <p>中間処理(破碎し分別)を行ったことによる資源化と、もう一方で、資源物回収については、分別収集され、且つリサイクル出来るものに分類されている。</p>
庄司 会長	<p>リサイクル率を高める場合、市民に対し収集後資源化量を上げると言っても意味が伝わりづらく、収集後の資源化量を上げるためには、処理施設の選別能力を上げるしかなく、例として焼却灰をエコセメント化すること等が収集後の資源化量を上げる要素となっている。また、市の処理対応によっても大きく変わる要素もあり、市民に向けて、「資源回収でリサイクル率を上げましょう。」と訴えるところもある。</p>
多田 委員	<p>空き缶は、どちらに入るのか。</p>
府川 主任	<p>空き缶は、7頁②資源回収による資源化見込み量の中の、不燃系にあたり、6頁①のごみ処理見込み量及び目標値にある、「鉄等金属を資源化」の中には含まず、鉄等金属については、鉄やプラスチックの複合物を破碎処理した後に分別された金属のみを対象としている。</p>
庄司 会長	<p>本来、分別して資源ごみとして出した空き缶は資源回収されるが、分別されずに、燃やさないごみの中に捨てられた空き缶は中間処理場で回収されている。</p> <p>廃棄物処理計画では、発生するごみ量を予測し、また、ごみとなるものと資源となるものを分類し、どの様な形態で収集処理、または、リサイクルするのか、その計画を出すのが処理計画を作成する目的である。</p> <p>重要となるのは、とにかくごみを減らさなければならないことであり、処理計画としては平成22年度の実績に人口の増加率を加えた最大限の処理量を設定しているわけである。</p> <p>平成23年度は、更に新たな目標値を定める必要があり、もう少し減量できる見込みもあるが、これまでの実績の延長上で発生量を見込んでいる。但し、更にごみを減らしたい意味合いとして発生目標、あるいは処理目標値を掲げるための課題に取り組むことが重要である。</p> <p>問題点として、具体的な数字を掲げるにしても、実際に実行されなければ市の方針にそぐわず、可能性を秘めた数字を割り出す必要がある。</p>

	<p>いわゆる抑制、減量施策を掲げるべきであり、継続させるべき施策、または新たな施策をもって目標を立てるのであり、この平成23年度処理計画（案）に記載される施策について議論いただき、一定の整理を行う必要がある。</p> <p>廃棄物処理計画の策定に向け、全体的な流れは以上であるが、委員各位には、次回の審議会までに、是非ともこの処理計画（案）を熟読願いたい。</p> <p>また、次会の審議会では、この処理計画案に具体的な数字が載り、その数字に対する評価も協議することとなり、小金井市の現状として、多摩地域の市、または一部事務組合に焼却処理支援を受けている現状を受け止めた上で処理計画を立案しなければならないが、現状として来年度の処理支援は何も決まっていないが、引き続きご支援いただけることを前提とするものであり、そのため、更なる減量努力をしなければならず、それらの相互関係を踏まえた中で計画を策定し、着実に実行して行かなければならない。</p>
<p>加藤 委員</p>	<p>8頁にある、平成23年度の減量目標に、可燃系5%、不燃系1%とあるが、可燃系については、市民の努力により減量化がなされ、過去には5%を超える減量が果たされたこともある。但し、不燃系の減量目標はここ数年1%としているが、結果としては増加している。不燃系の減量目標1%は極めて表向きな印象が残る。例えば、西東京市と比較した場合、不燃系ごみの発生量は何倍も多く、その根拠について検証する必要がある。</p>
<p>深澤 部長</p>	<p>可燃系については、努力による減量が可能な分野と考えている。但し、不燃系については、出されたものをいかに資源化するかであり、平成22年度も、当初の予測より4%以上増えている。</p> <p>この原因は不明だが、憶測として考えられることとして、世情が不景気になると、家の片付けをし、ごみが増え、また、小金井市のように分別が徹底されると、今までは可燃系の中に混入していた不燃系ごみが分別された事により、結果として不燃系ごみが増加する要因となる。</p> <p>ここ数年の経過で、中間処理場で扱われる不燃系ごみ量は、年々増えており、これを減らすことについて思案している。</p>
<p>庄司 会長</p>	<p>不燃系ごみの組成分析データの提出、もしくは、直接携わる方の感想を伺いたい。</p>
<p>吉沢 課長</p>	<p>まず、収集に携わる者の印象として、休日の収集に際し、最近では家の片付けをされている住居者が多く見受けられること、また、植木鉢や食器類等の不燃ごみが多く、このため重量がかさみ、排出量が増加した大きな要因となっている。但し、総発生量としてそれほど増えておらず、分類的に増えているものもあれば、減っているものもあるとの評価となり、このことについては、収集する者と分別</p>

	<p>する者との印象が一致している。</p>
庄司 会長	<p>皮肉にも、不景気による就業率の低下が、家庭系不燃ごみの排出量増加の要素を含んでいることに納得が得られる。</p>
吉沢 課長	<p>付け加えれば、連休明けの不燃系ごみ量は特に多くなっており、これまでには無かった現象である。</p>
庄司 会長	<p>あくまでもデータに基づいたものではないが、参考としたい。</p>
加藤 委員	<p>小金井市では、毎年8,000人から9,000人規模の人口移動があり、多摩地域においても移動人口の多い都市であり、特に学生も多く住まわれている。</p> <p>学生住民は、卒業の際、不要となった生活用品をそのまま処分することもあるのかと思われが、その点の実情は確認できないか。</p>
吉沢 課長	<p>傾向としてはありうるが、例年、排出量の増加は4月から6月にかけて多くなるが、今年に関しては10月頃まで減少せず、11月に入ってからようやく減少してきている。</p>
庄司 会長	<p>人間の移動と可燃ごみ排出量との関連する要素があることになる。</p>
松村 委員	<p>西東京市と比較し、一人当たりの不燃系ごみ排出量は大きく異なる。</p> <p>7頁の不燃系②資源回収による資源見込み量の表中の不燃系分類別に照らし、確認できるのではないか。</p>
加藤 委員	<p>その件について、ごみゼロ推進会議で、西東京市のごみ対策課担当職員から事情を伺えることとなっている。日程は未定である。</p>
庄司 会長	<p>不燃ごみは、市によって異なった取り組みがなされているため、単順には比較できないものと考えている。</p> <p>例えば、プラスチック系ごみを全て可燃、または不燃とするかによって大きく異なってくるため、その辺をよくとらえた上で考えていかなければならない。</p> <p>なお、西東京市の実情は、一度伺っておく必要があると考えている。</p>
竹内 委員	<p>西東京市及び小平市では、プラスチックごみは全て焼却処理されているものと思われる。小金井市においては、収集の段階で分別されており、また、排出されたプラスチックごみの容り協会の評価はAランクであることについて認識すべきである。</p>

加藤 委員	<p>小平市においては、プラスチックごみの一部は埋立処分されていることも認識願いたい。</p>
庄司 会長	<p>家庭系プラスチックごみの割合が増えていることについて、何らかの対策を講じる必要があり、ごみ減量、またはごみ処理計画の立案に際し、重要な課題として捉える必要がある。</p> <p>次に、ごみの収集方法については、12頁以降に記載され、平成22年度と変わりなく、また、これに従う処理方法が記載されているが、総論のご意見を伺いたい。</p>
加藤 委員	<p>粗大ごみの収集は、粗大ごみとして申し込まれた場合には粗大ごみとなり、リサイクル事業所に申し込まれた場合にはリサイクル品として扱われている。</p> <p>このため、リサイクル事業所への申し込み案内を、ごみカレンダー等を利用し、広告すべきではないか。</p>
深澤 部長	<p>リサイクル品の扱いは、一定のルールにより実施されており、再利用できるものはリサイクル事業所で販売されている。しかしながら、リサイクル品の販売実績が思ったように上がらない状況にあり、家具類に至っては、特に低迷している。</p> <p>その理由として、新築家屋では作り付け収納庫なども多く、タンス等の家具類の需要が少なくなっていることが要因として考えられる。</p> <p>また、リサイクルセンターのスペース的な問題もあり、必要な品目を全て受け入れられない事情もある。</p> <p>現状として、一番多い取り扱い品目は自転車であり、全体的なリサイクル商品の数は減少し、更に、リサイクルセンターで売れ残った品物は、再び粗大ごみとして中間処理場に搬入され、破碎処理された後、ごみとして処理されることになる。</p>
庄司 会長	<p>手間、暇をかけてごみ処理するような非効率な結果となってしまうのは残念である。</p> <p>分別すれば終わりではなく、リサイクル品として再利用されなければ意味がなく、この仕組みを整えた上で初めてリサイクル循環型社会の形成が調うのであり、リサイクル率を上げるためには、再利用計画をきちっと定める必要がある。</p> <p>容器リサイクル法を始めとし、リサイクル法を定める仕組みは国が引き受けているわけであり、市が取り組むべきリサイクルとは、市の実情に照らし合わせた計画を独自に定める必要があり、今後、施策を考えるにあたり、効率的なリサイクルが果たせるよう検討する必要がある。</p>
勝又 委員	<p>指定日に出せなかった場合など、中間処理場への直接持ち込みが出来るよう検</p>

	<p>お願いしたい。</p>
庄司 会長	<p>市の、現状対応はいかがか。</p>
吉沢 課長	<p>現状、一切受け入れていない。</p> <p>理由として、場内が狭く、一般市民の立ち入りには多くの危険が伴い、また、ほこり等の飛散による衛生環境も整っていない事情もある。</p> <p>また、工場内以外の敷地内に保管場所を設けることを検討したが、小学生の施設見学等に際し、必要な通路を確保しなければならない事情もあることから断念した。</p>
勝又 委員	<p>スペース的な問題として捉えてもよろしいか。</p> <p>また、適切な保管場所が確保できれば可能であると捉えてもよろしいか。</p>
庄司 会長	<p>関連質問として、現状のスペースにおいては、搬入車両の動線的な問題も含め難しいと考えているが、市の対応として、当日に出しそこなったごみに限らず、一定量まとまった場合でも一切受け入れていないのか。</p>
吉沢 課長	<p>現状、受け入れていない。</p>
勝又 委員	<p>例えば、古紙の収集の場合、指定日が雨天であったためにごみ出しを控えてしまった場合にも持ち込むことは出来ないのか。</p>
柿崎 課長	<p>古紙の収集は、雨天でも行っているのですが、ご配慮は不要である。</p> <p>但し、雨天の場合、布の収集は行っていない。</p>
伊藤 委員	<p>本市のごみ減量は、市民の理解と努力により成り立ち、その必要性は、他市の施設により燃やすごみの処理をお願いしていることにあると考えている。</p> <p>燃やすごみの処理は、2頁（6）に記載されているとおり、平成21年度及び平成22年度は幸いにもご支援いただけているが、平成23年度については未定であり、現時点における支援見込み量は、まったく不明なのか。</p>
三浦 課長	<p>平成23年度については、現段階においていくつかの団体に対し相談している。但し、それぞれの団体においても、議会にはかかる必要があり、小金井市が先立ちご支援いただける団体を表明することは極めて不適切であり、現状、支援いただいている団体を軸とした調整を進め、当審議会への報告は、今しばらく時間を頂きたい。</p>

植村 会長	<p>会長からの指摘と同様に、別紙フロー図については、小金井市内で収集されたごみが、実際にどのようなプロセスで処理されているのか、また、他市にどの位処理していただいているのか等、全体像が分かるフロー図を作成願いたい。</p> <p>全体の流れを分かりやすくすることにより、ごみの減量対策に向けた具体的な課題が見分けやすくなるを考える。</p>
府川 主任	<p>次回の審議会までに検討いたしたい。</p>
庄司 会長	<p>ごみ処理計画は、あくまでも数値を基に計画すべきであり、フロー図に数値が加わるにより、ごみ処理系統がより分かりやすくなるため、是非とも前向きに検討願いたい。</p>
加藤 委員	<p>併せて、毎年、市報7月15日号に掲載されるフロー図についても検討願いたい。</p>
庄司 会長	<p>平成23年度一般廃棄物処理計画（案）に伴う本日の議論はここまでといたしたい。</p> <p>次回の審議会に向け、あらかじめ焦点を定めておきたいが、10頁にある「*市民ひとりひとりが地道に取り組むことにより減量効果が推計できるもの」の表中の数字は、次回までに標記できるのか。</p>
石阪 係長	<p>標記する。</p>
庄司 会長	<p>次回の審議会では、4頁、5頁の第1 平成22年度の状況に基づき、8頁、9頁の2（2）ごみ減量達成に向けた施策について、具体的な検討を進めたいと考えているが、このことについてよろしいか。</p>
委員 各位	<p>了承</p>
庄司 会長	<p>次に、平成23年度版ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の審査結果について報告願います。</p>
井上 係長	<p>平成23年度版ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の審査結果について報告</p> <p>まず、最優秀賞1作品は、No.11（31得点）、次に、優秀賞2作品は、No.19（15得点）と、No.5（14得点）及びNo.10番（14得点）が同一得点のため、委員皆様の挙手により決定いたしたいが。</p>
庄司 会長	<p>委員各位の挙手による決定でよろしいか。</p>

委員 各位	了承
井上 係長	<p>それでは挙手願います。</p> <p>No.5（8人）、No.10（7人）</p> <p>以上の結果により、No.5の作品を優秀賞と決定する。</p> <p>次に、秀作3作品は、惜しくも優秀賞の次点となったNo.10と、No.7（12得点）及びNo.15（9得点）とする。</p> <p>優秀賞作品は、平成23年度のごみカレンダーの表紙絵を飾ることとなり、その他、優秀賞及び佳作は、ごみカレンダーの裏表紙を飾ることとなります。</p> <p>ご協力ありがとうございました。</p>
委員 各位	拍手にて承認
庄司 会長	<p>平成23年度版ごみ・リサイクルカレンダー表紙絵の審査結果については、以上のとおり決定します。</p> <p>次に、次回、平成22年度第4回審議会開催日程について調整したい。</p> <p>事務局から提案はあるか。</p>
深澤 部長	1月15日以降の開催としたい。
庄司 会長	次回、開催日程を平成23年1月26日（水）午後6時00分からの開催を提案したい。
委員各位	了承
庄司 会長	<p>回りの開催日を、平成23年1月26日（水）午後6時00分からとし、開催通知は事務局から改めて通知することとする。</p> <p>閉会</p>